



# LAME YARN CONCIERGE SHEET

ラメ糸コンシェルジュシート

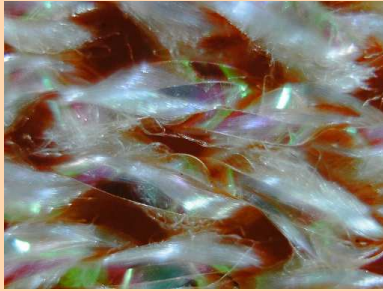
No. 2014020708



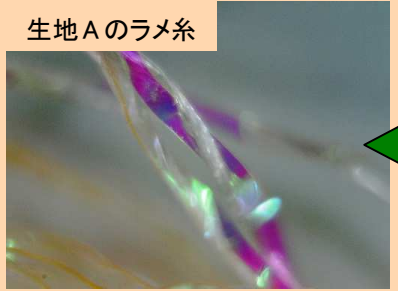
## 「ラメ糸の肌触り」について

### アドバイス内容

生地 A

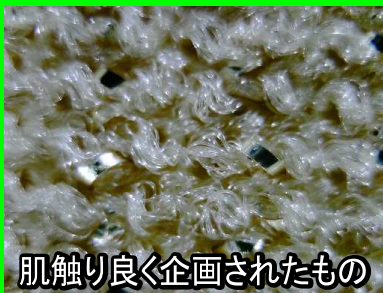


生地 A のラメ糸



切巾 120 切  
(0.23mm)  
厚み 30 ミクロン  
75dのキュプラと  
羽衣撚  
織度 186dtex

生地 B



生地 B のラメ糸



切巾 200 切  
(0.15mm)  
厚み 12 ミクロン  
12dのウーリー糸と  
タスキ撚  
織度 55dtex

肌触り良く企画されたもの

ラメ糸はチクチクして、皮膚への刺激が大きいから肌に直接着るようなものには向かない。という見解は素材の向き・不向きでいうと正しいことです。ラメ糸はフィルムをスリットして製造するもので、角(エッジ)もあります。平糸(スリット糸)の構造としては「モノフィラメント」と見ることもできます。しかし、デザインや企画において、インナーやファンデーションにラメ糸を使用したいということも起こります。そのような場合、「ラメ糸を使用するものは全てチクチクしてしまうから同じだ」と考えるのではなく、「チクチクしやすいラメ糸という素材をどうやったらソフトに使用できるか」という方向で発想をして頂けると、用途が広がります。

生地 A は一般的なラメ糸入りの編地です。婦人用のニットになります。裏面にはラメ糸が出にくいような組織に工夫されていますが表面が折り返された状態で肌に触れてしまうと、すぐザラつきを感じます。

生地 B は、インナー向けに企画された編地です。表面も裏面も、薄地にもかかわらずソフトな風合いに仕上がっています。

生地 A も生地 B も同じ「ラメ糸入りの編地」ですが、使用されているラメ糸の内容が大きく異なります。

生地 B も敏感肌の方にとっては受け入れられないこともあると思いますが、生地 A と比較すると「これなら使用できるかも」というケースが発生します。

目的を持って「糸」から設計すると、従来では成し得なかった風合いや外観・機能を持った繊維製品を開発することが可能になります。カタログから既存の素材を選ぶだけでなく、目的に沿ってラメ糸を生産することが可能です。「撚糸」というラメ糸製造の終盤あたりの工程に変化を加えるだけなら、場合によっては大きなロットを必要としないこともあります。いつか可能にしたいような企画があれば、ぜひ素材作りにも目を向けてください。



泉工業株式会社

<http://www.izumi-kingin.com/>

〒610-0114 京都府城陽市市辺西川原19

TEL : 0774-52-0709 担当 : 福永・山田

A



一般的な ラメ糸入り 糸織地

30≒70ン、120切 (0.25mm)、キヨタラ75d ヒ羽本標



B



肌触りに重点を置いた ラメ糸入り 糸織地

12≒90ン、200切 (0.15mm)、ウーリナイロン12d ヒタスキ標



泉工業株式会社

<http://www.izumi-kingin.com/>

〒610-0114 京都府城陽市市辺西川原19  
TEL: 0774-52-0709 担当: 福永・山田